

理科教育賞、リカジョ育成賞の受賞者にインタビューしました！

今回のニューズレターでは、インタビュー記事の冒頭を紹介いたします。インタビュー全文は日産財団HPに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



第9回理科教育賞大賞受賞
福岡県行橋市立中京中学校
福羽延生校長(左) 別府直晃教諭(右)

自然を知って守る研究の楽しさを先生と生徒が分かちあう

中学校の側を流れる用水路で生徒が絶滅危種の魚を見つけたことを起点に、生物のつながりの複雑さを探り、自然を守る意識を高める理科の授業を展開している学校があります。福岡県行橋市立中京中学校は、絶滅危種カゼトゲタナゴの生息の理由を探り、さらに飼育して繁殖を試みる活動もしています。 -以下省略-



第9回理科教育賞受賞
福島県相馬市立桜丘小学校
小関洋校長(左) 原悠太教諭(右)

見方・考え方の明確化で「共に学び合える」授業を実践

理科教育でキーワードになっている「理科の見方・考え方」を可視化するなど、さまざまな手だてで「共に学び合える」授業づくりに挑み、成果をあげている学校があります。福島県相馬市立桜丘小学校は、理科において「個々の疑問」から「集団の疑問」へと導く授業展開や「見方・考え方」の明確な提示などにより、友だちとともに問題解決をはかっていく授業を実践しています。 -以下省略-



第9回理科教育賞受賞
神奈川県川崎市立東菅小学校
松木瑞穂教諭(左) 藤中大洋校長(右)

本質の追究と思考の「すべ」活用で児童が見通しをもち ふり返る授業を実践

川崎市立東菅小学校は、日産財団理科教育助成にて「見通しとふり返りに視点をのいた理科における思考力の育成」というテーマの研究に取り組み、教科の本質を追究し、授業では話型も活用しながら思考の「すべ」を意識的に採用。これにより子どもたちが見通しとふり返りをおこなう授業を実践しています。 -以下省略-



第9回理科教育賞受賞
栃木県栃木市立栃木中央小学校
国府谷康子校長(左) 馬場秀樹教諭(右)

ユニバーサルデザインの視点で個人だけでなく全体の学び を高める

栃木県栃木市立栃木中央小学校は、日産財団理科教育助成による研究「一人一人が生き生きと学び、どの子も「分かる」を実感できる理科授業の在り方～かわりあいの中で学ぶ、ユニバーサルデザインの視点を当てた授業実践を通して～」に取り組み、学びでつまずきやすい子だけでなく、多くの子どもたちの学力や意欲を高めました。 -以下省略-



第5回リカジョ育成賞 グランプリ
独立行政法人国立高等専門学校機構
小山工業高等専門学校
高屋朋彰准教授(左) 柴田美由紀教授(右)

さまざまな進路意識レベルの女子中学生に 複数のイベントで高専の魅力伝える

工業高等専門学校は中学を卒業した子どもたちが本科に入学するため、中学生たちに入学志望者になってもらうことが重要となります。学生比率がさほど高くない女子学生に対して、高専での学びの魅力を伝えるための取り組みに力を入れてきたのが、独立行政法人国立高等専門学校機構小山工業高等専門学校です。女子中学生の進路への意識レベルを3つに分けて、それぞれのレベルにあったイベントを開催するなどして、生徒たちの理工系への進学を支援してきました。 -以下省略-



第5回リカジョ育成賞 準グランプリ
東京都立戸山高等学校
松村幸太SSH部主任

女子生徒が「研究」を体感できる発表会SWR を毎年開催

「スーパーサイエンスハイスクール」(SSH)認定校である東京都立戸山高等学校は、例年「戸山高校SSH研究発表会SWR (Symposium for Women Researchers)」を実施し、女性研究者を迎えての講演会、研究者を迎えてのキャリア相談会、生徒みずからによる研究発表、女子の大学生・大学院生たちとの交流会などを実施しています。SWRを通じて同校は理系女子の活躍の場とネットワークの構築ができる環境の創出につとめてきました。 -以下省略-



第5回リカジョ育成賞 準グランプリ
一般社団法人スカイラボ
共同創設者 ヤング吉原麻里子さん(左) 木島里江さん(右)

「人間」を軸とした「STEAM × デザイン思考」 で女子高校生を育てる(仮)

STEAMにデザイン思考を取り入れたワークショップを実施することで、高校生を中心とする女子生徒をSTEAM人材として育てていく。このような取り組みをしているのが、一般社団法人スカイラボです。ワークショップに参加した女子高生たちには、STEAM領域への関心の向上や、相手がなにをどう感じているかを思いやる力であるエンパシーの向上といった変化が見られました。 -以下省略- (インタビューの全文は、12月中旬にHPに掲載予定です。)

第2回STEAM教育フォーラム

外部リソースを活用して、 STEAM教育をはじめよう！

2022年10月29日(土)にオンライン開催しました /

学校の先生たちに「STEAM教育を始めるにあたり、外部リソースを活用して課題解決をはかってみては」という提案するかたちのテーマとし、パネリストやコーディネーターから具体的な情報や提案を多くいただきました。全国の教育関係者など約100名ものみなさんにご参加いただき、充実したフォーラムとなりました。多数のご参加ありがとうございました！



井上 祐巳梨
一般社団法人STEAMJAPAN 代表理事



海浦 航平
株式会社リバネス
人材開発部 / 教育総合研究センター



加納 圭
日産財団 理事
温賀大学 教授

最新の財団情報やインタビューの掲載タイミングはメルマガで確認できます。右のQRコードから登録をお願いします →

